

クロス集計を用いた市民生活実感調査分析について

庁内のイントラネットにおいて、市民生活実感調査結果のデータベースを用いた分析方法を提供する。

<掲載案>

市民生活実感調査結果のデータベースを、エクセルの「ピボットテーブル」という機能を用いることにより、次のような視点から分析することができます。

<属性別分析の視点>

- ・性別、年齢別、職業別、居住区別、居住年数別、市政への関心度別

例) 施策名「だれもがずっとくらし続けたくなるすまい・まちづくり」

設問「今住んでいる住宅や周りの環境には満足している」

の年齢別の回答結果が知りたい。

データベースの見方については、次のとおり：

- ・軸の説明

縦軸：調査票

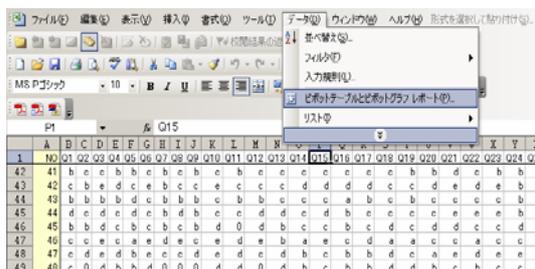
横軸：設問及び属性

*上記の設問は、ここでは「Q 5」

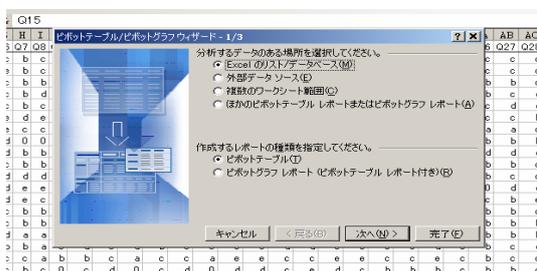
*年齢は「F 2」で、各数字は次の年齢を表す。

1：20代、2：30代、3：40代、4：50代、5：60代、6：70代、7：80代

- ①「メニューバー」の「データ」の中から「ピボットテーブルとピボットグラフレポート」を選択



- ②「ピボットテーブルウィザード」が画面に出てくるので、そのウィザードの中の「[Excel] のリスト/データベース」及び「ピボットテーブル」を選択し、「次へ」を選択



- ③「使用するデータの範囲を指定してください」と画面に出てくるので、クロス集計をかけるデータベースの範囲を指定

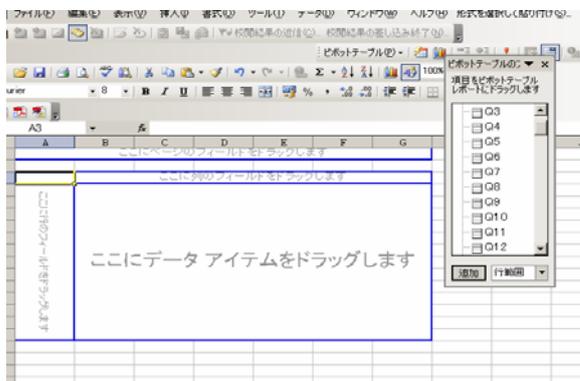


- ④「ピボットテーブルの作成先を指定してください」と画面に出てくるので、一つ目のクロス表を作成する際には「新規のワークシート」を選択し、「完了」を選択



- ⑤空白のピボットテーブルの画面が表示される。その画面上にピボットテーブルの操作に使用するピボットテーブルツールバーが表示されるので、クロス集計をかける対象をピボットテーブルツールバーから選択し、画面上の空白のピボットテーブルの「ここに行のフィールドをドラッグします」「ここに列のフィールドをドラッグします」「ここにデータアイテムをドラッグします」と指定された欄にクリックドラッグで移動させる。

(この場合行のフィールドに設問のQ5をドラッグ、列のフィールドに年齢別のF2をドラッグ、中央部には、Q5をドラッグ)



⑥クロス集計表が完成

ここにページのフィールドをドラッグします

データの個数 / Q5	F2									
Q5	0	1	2	3	4	5	6	7	総計	
0	1	1	3			4	5		14	
a	2	4		2	2	6	2	2	20	
b	2	7	4	6	13	14	11	4	61	
c	3	14	17	14	23	19	14	8	112	
d	7	10	17	31	35	25	22	8	155	
e	12	8	21	29	23	18	9	5	125	
総計	27	44	62	82	96	86	63	27	487	

追加 行範囲

以上の集計結果から、例えば

- ・ 回答者のうち、4の50代の割合が最も多い
- ・ aと答えた人は、5の60代が最も多い

ということが分かります。